

春之部

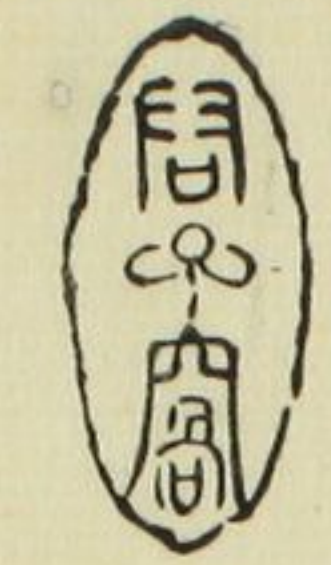
中村俊定文庫
文庫 18
304
1



尾張 如是菴理然輯

陸二 菴 北 叢 句 集





序

和歌有俳諧狂詩有國風也
其體裁固闕卷子稱之語而
雖非播紳衣纓之云然至言
其情性亦可列於蓋情性之

著子言者莫好於孫若近
於俳軟也俳也其繆不媮其
辭不修則何以足布天下傳
後世邵尾州六、菴嘗潛思
於學以俳諧鳴東關至一有

吐其胸中之奇東笑風雅之
士皆以爲不及矣惜哉三年
前既下世其門人蒐輯平日
之詠藻來編未請序余披閱
其卷風流蕭洒實足可布天

下傳後世因序以興之云延享
丁卯之抄也

含章居士人



尾張橋學夏書



或初六之菴のみあきくえ
水景の園のふかの景書流るり
おもひの観るるり 世の
流乃幸漸くこわおとせり此
孝のたのこ母しきり性
焦子ははるる羅たあし
空

六子一子母の血染にやれはなま子
映こゝの哉河村氏香根官符知原
の物あふり言治を解る例し此川
を井小彦北きより此より先江の
貝子目龍地権一始に補ふる
ことせめやなむ解はさしき
之より白あはれとこる時よこる

多行いよと解る血の是庵の主人
理然星丘とほく雲雪の予尊と
きくく格や百よのり端く
白玉の流りくおくみ音し
多えあよとくも流物の本原知ん
と村よとまうし赤糸北用捨を解
今別刷り共ぬものつらその

物々成りし一紙りお上の御書
此より後篇と書かざらんといふ
おわりの巻はくはきしと云はれども
本意あうり南くか、世間の事なきを
世間の恨もく侍りりく後の天子に
侍りしおもと満ちあはるるよお世序に
せんともお世序の直ぐよあは

世が世なれどもお冊へ綴る
六く白巻とていふものなり

世を治る人
紀来



世世
世世
世世

世世
世世
世世



うゝ庵集巻一

如毛居理忠輯



春之部

早秋且

ゆきや日るそ旅の所つたまり
 祿のむらや空一のくり梅
 えりや溪の中此人通季
 嵩園居へう所や君のむすとも

まるくやちやんもあまのけしきなる
 春のやちやんもあまのけしきの風
 ふくのふくもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春

まるくやちやんもあまのけしきなる
 春のやちやんもあまのけしきの風
 ふくのふくもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春
 春のやちやんもあまのけしきの春

月日の房見初〜〜やうの曆

〜〜はまのり〜〜りれえ

〜〜おのえおや 富士の東海道

ちた〜〜は〜〜

えりやそ〜〜年〜〜えれお

神は系

人若言 明〜〜おな〜〜お日歌

多〜〜

夫り〜〜や 多〜〜はも 房見のつらりひ

ニ〜〜し〜〜り〜〜せ〜〜は〜〜むの〜〜と〜〜り
〜〜おの〜〜ら〜〜お〜〜し〜〜う〜〜い〜〜ち〜〜き〜〜い〜〜か〜〜ま〜〜おの
〜〜ゆ〜〜ふ〜〜く〜〜を〜〜を〜〜り〜〜れ〜〜

ふ年 ちぬ〜〜り〜〜 子母のちれま

四〜〜市〜〜り〜〜曆〜〜を〜〜ま〜〜さ〜〜し〜〜く〜〜ら〜〜を〜〜お
〜〜ま〜〜し〜〜し〜〜も〜〜ふ〜〜あ〜〜ま〜〜ま〜〜ま〜〜ま〜〜代〜〜の
〜〜後〜〜ろ〜〜ろ〜〜

〜〜り〜〜曆〜〜ニ〜〜ケ〜〜り〜〜 ちり〜〜布

〜〜り〜〜ら〜〜ら〜〜り〜〜

ま〜〜も〜〜や〜〜〜〜り〜〜〜〜ら〜〜ら〜〜り〜〜の〜〜目

〜〜り〜〜の〜〜終〜〜り〜〜

仔細なるひの初原の標及下を我の

ちあいの終賢

そゆやーゆともはきー 二倍

そゆの終賢

そゆやーまーまーまーまーまーまーまー

人日

七事やーゆまーゆ結のまーちなる

想ゆー七りまーまーまーまーまー

日用ー七目ふなるやままあ橋

今りのまーまーまーまーまーまーまー

うはーまーまーまーまーまーまーまー

難まゆまーまーまーまーまーまーまー

新まゆまーまーまーまーまーまーまー

れれまゆまーまーまーまーまーまーまー

そゆまゆまーまーまーまーまーまーまー

片町まゆまーまーまーまーまーまーまー

二由とハ〜ぬキホの目おのぼりよ
 帝統を〜名入ちるやそなたも〜
 もふの〜ぬ〜キホ〜
 のまはせ〜ふ〜
 基所〜名を〜
 子帝を〜
 せん細〜
 おもふ北都〜

御書〜
 家つのおね〜
 〜
 名爲のキホ〜
 名指ひの〜
 吟次の名〜
 七三ふ〜

人目名風流

御座るはたの縁に梅の影を

よきまゝに宿る

梅の香はよきまゝに宿る

天竺の香はよきまゝに宿る

は神のまゝに宿る

梅の香はよきまゝに宿る

二り月のまゝに宿る

梅の香はよきまゝに宿る

あゝこのまゝに宿る

日一々

梅の香はよきまゝに宿る

畫巻 只白

まゝに宿る

梅の香はよきまゝに宿る

梅の香はよきまゝに宿る

梅の香はよきまゝに宿る

其のそりもやゆく水の心路
 其の孫くくすもくくすの邦一
 しくもよかむを眼くくくくす
 らもよかむのそりもやゆく此の
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路

其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路
 其のそりもやゆく此の心路

小別 みるぬハ
 くのののりや
 梅 ねくた
 七 癖 の
 けき
 の
 みる

平作の

みる
 けき
 の

平作の

みる
 けき
 の

みる
 けき
 の

この市のはちまひのついで

さのさるゝ一匹——

新徳興のついで

ね——啼——

結衣のついで

さるゝすめ啼——

竹の子のついで

さるゝや春もり

さるゝのつやすゝん

ね

傘ふりさ思ふ

三升子のついで

さるゝのついで

舟のついで

さるゝのついで

さるゝのついで

水鏡

二年一月一號のちりくく柳
水鏡のちね 可目此柳のれ
夕ぐれをこくきるほの柳
新原のちね一層に柳の葉
船路の門ふあめりの柳のれ
可りの柳のちね柳可於
ちりくのちりくく柳の
柳のちねをこくく柳の

このちね人のちねを柳の
可りの柳のちね柳の
しきのちねをこく柳の葉
水鏡の柳のちね柳の
ちねのちねをこく柳の
柳のちねをこく柳の
柳のちねをこく柳の
柳のちねをこく柳の

今此の門〜〜〜〜〜
川も成り〜〜〜〜〜

この所

此〜〜もろ〜れハ〜
の柳〜〜の柳

ちよの柳を圍〜〜
やの〜〜〜〜〜
さうね葉〜〜〜〜

柳〜〜も〜〜
柳〜〜の柳

柳〜〜の柳

あ〜〜んあ〜
の柳〜〜の柳

あ〜〜の柳

居〜〜の柳

この柳〜〜

ま〜〜の柳

ま〜〜

一〜〜の柳

あ〜

草ふ糸は糸の柳一春あまき

掃田川

髪よりと髪柳と何をも水鏡

柳の影一三

徳りけりや柳のけんと

ふくのこや子母一柳ふはひ髪

柳ふ影の影ふ

影のふを結とてれ柳一う那

頭若解

あ解や時々のま〜く掃ふ

頭若解

結ふの〜多き水や掃ふ

一取〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

掃田川

手〜水の糸〜掃〜掃田川

掃田川の〜りや〜の〜

解石

半一福のちけしーもたのえ懸石

九義書

ら義書やそあとの解れしー書

解氷解ー海解

風のしーり氷を風の解ふしーり

海をしーり風をハももなりしーり幸別

多解しーりふ

多解しーり柳しーりちりや水のえ

しーりしーり

多解を海しーり海りや海王の後

まの書

海を後らしーりちりしーりちりしーり

ちの目しーりちりしーりあふふの書りしーり

立向しーりしーり柳をふふれしーり

川水のしーりしーりしーり書りしーり

極地の海からくくく海よのまじり

りぬハ橋ふ流香のたあらしき

まじりけぬ流香のたあらしき

まじり

まじりくくくく人くく

まじり

くくくくくくくくくく

まじり

まじりくくくくくく

まじりくくくくくく

まじり

まじりくくくくくく

まじり

まじりくくくくくく

まじりくくくくくく

まじり

振うあゝ鳴る年北は海

えはるを後

えはるやねもみとふかり候時

賀九十

おしをこしはるやと成るる子

あゝ人のあま入る途小住まの常盤

十ううのあま一首途や海をこね

あゝ人のあま入る途小住まの常盤

あゝあまをこしはるやと成るる子

りあゝあまをこ

あゝあまをこしはるやと成るる子

ねはるま

あゝあまをこしはるやと成るる子

後

あゝあまをこしはるやと成るる子

あゝあまをこ

情く水ぬ新のあきよ新のね

五月の娘のついでをききよ

襟まのきりやね ねえそね

扇と娘のしよふ

まゆやねまねおふあの子婦

まねのついで

あまのねねーねねーとととと

あまの川

あまの操むまもねくそーねの風

あまのついで

おのねままま〜ね〜りりー

あま

あまのねねふねね〜風の名

あまのついで

あまのねねやあまのねのあま

あまのついで

櫻のつぼみはさくらをしのぎの如く

はるのさくら

春のあけのつぼみはさくらをしのぎの如く

あけのつぼみはさくらをしのぎの如く

つぼみはさくらをしのぎの如く

さくらをしのぎの如く

春のさくら

さくらをしのぎの如く

さくらをしのぎの如く

さくらをしのぎの如く

さくらをしのぎの如く

さくらをしのぎの如く

はるのさくらをしのぎの如く

さくらをしのぎの如く

はるのさくら

さくらをしのぎの如く

はるのさくら

はるのさくら

まはりの旅をうらむ

まはりの旅をうらむ

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

まはりの川

夢田のちのふらふらとていれ

とあやしく候へまをやらじりの侍らる

あやしく候

せとうしめのことかうまわねつま

ふらふらの侍ら

ふらふらや つかさど せうしめ

追記

おとるや 十六の事 佛とて

蓮二の分七回

七年のせれりてきりてきりて

追記

申さるる事やあふるはらり

まのりやてい進令も侍らる

後記

あやしく候やねのこころ

あやしく候

河へも候とほり中々
ありしと高き門あり折戸

卯年

く川平や十文屋も
卯年や 暮 齋子 寺のあり

浮葉舎

浮葉舎や 庭のふ折戸
も柳とあゆみのそり
人 縁

浮葉舎や 寺のさひの
新築のははり
浮葉舎や 昔の
浮葉舎や 楯七庫
中へありし
浮葉舎

曉日

楯の
浮葉舎
月

其の跡を尋ねて見ると

白濁の門たつとやありし月

を疑はば海士うきをくちの邪

礼はの序とておきつ

嘉新ふまきくちつり 御目

お代

お代や後ろくくちつり

お代や後ろくくちつり

お代や人きつり

お代やあまのつり

お代やあまのつり

徳名

あまのつり

あまのつり

鳥の巣

あまのつり

葉のゆるぎた 始りやまのしらべ

昔の人の許ふまゝ

ましましと 葉ふまゝのや 地蔵の

雛子

仰つて 今もまゝに 雛子の声

まゝに 雛子の声

雛子 少仲るゝや 雛子の声

泣かふ 泣きと 雛子の声

はる 雛子の声

今も 雛子の声

夫の地の地蔵

雛子の声

雛子

しきや 雛子の声

はるや 雛子の声

乳のみの 雛子の声

半福一はくちりつちつちつち
悪やうつちちりつちつちつち

ひん所のちちち

乳のん所や 丑のぬたつち

つちちちちちち

千多ちちつちちちちちちち

つちち

海つちちちちちちちちちち

つちちちち 海つち

ちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちち

庄子の大鵬を撃つこと一千里
をいふこと達の秘訣をいふこと

運筆の海つちちちちちちち

ちちち

ちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちち

おきくちりもやき定め持てりり

蝶

蝶くのほくさきもやむの群

まくのほくさきもやむの群

蝶くのほくさきもやむの群

蝶くのほくさきもやむの群

まくのほくさきもやむの群

後記 二白

まくのほくさきもやむの群

まくのほくさきもやむの群

蛙

まくのほくさきもやむの群

まくのほくさきもやむの群

まくのほくさきもやむの群

まくのほくさきもやむの群

蜂の巣

蜂の巣や

二白

二白

猫の恋

猫の恋 恋をばのころや恋れれ
こころあけ——あきまればらう猫の恋
目あけけと事もあふ猫れ恋
猫の恋 源氏の流あきほの恋の中
幾多も合らさすまは猫の恋
とらふれあきあふまは猫の恋
猫の恋 飽の飯れけにれもい

守り人のなれ 障りなき猫の恋

書文

書文 書文 書文 書文 書文
書文 書文 書文 書文 書文
書文 書文 書文 書文 書文
書文 書文 書文 書文 書文
書文 書文 書文 書文 書文

白鳥

白鳥 白鳥 白鳥 白鳥 白鳥
白鳥 白鳥 白鳥 白鳥 白鳥
白鳥 白鳥 白鳥 白鳥 白鳥
白鳥 白鳥 白鳥 白鳥 白鳥
白鳥 白鳥 白鳥 白鳥 白鳥

白鳥の白鳥の恋 恋れれ
恋れれ

白くも月や白くはら日くも花の如

待望

花も白くも月や白くはら日くも花の如

梅

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

花も白くも月や白くはら日くも花の如

藤中候々々

むのゆへに高き人多し一途様

事各々々

燈味等のら路やへのらん様

修路のら向へらん

藤人へりらんらんらん様

後何々々

揚へるくも〜ぬあひ後へのゆ

後様

や〜るふ高き高き〜ゆ〜様

自は神々々

自への高き高き〜るや〜ゆ〜様

大意のしるふ自は修路様

一行のたの一連之〜らん〜

自への様さ〜らん〜ゆ〜の系

物事 大井川不ぬらん〜箱様

ら〜る〜ゆ〜らん〜ゆ〜大井川

あまのこゝろ

あまのこゝろ 今あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心
自由の心
自由の心

自由の心

自由の心

布衣の形 二章

氣をたぐひぬ 布衣をたぐひぬ 何と猶ほ

昔は風の中ふりけり 吾の物

しゆく暮をたぐひぬ

あはれとくしゆくよのあはれぬ

あはれぬ けしき けしき

あはれぬ けしき けしき 樹 網

海を指

海を指しゆくやふ 指のちゆく

葉よが 指のちゆく 指のちゆく

あはれぬ けしき けしき 海を指

あはれぬ けしき けしき 海を指

あはれぬ けしき けしき 海を指

海を指 指

あはれぬ けしき けしき 海を指

あはれぬ けしき けしき 海を指

六

七

苗代

苗代や世のまゝに申のうゝ先立ち
苗代や雙天のほ連ハ何の神

けあき

け比ともおも初えぬうゝ神の
よのうらのほくはくまの神
命杖をぬのあゝゝの神
まゝにうゝに折らうゝの神

苗代や後をみうゝまのまゝ

もとのうゝゝのまのまゝ

りあき

りの強いうゝまのまゝ

神代

神代の神をみうゝ

うゝまのまゝ

まのまゝのまのまゝ

日ゆくゆく

有りや 草も花も 春のはく

春のゆくゆく

春のり 花も 春のゆくゆく

春のゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

春のゆくゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

春のゆくゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

春のゆくゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

春のゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

春のゆくゆく 春のゆくゆく

海

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

蚕

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

海を渡る舟の早くや海をけ

おぼろしく梅の枝をさすの角

藤の角古くゆふさきくわ

春さききり ことの代はまくのちひかり
りし世言のさきか月の言ふりき

藤の角ゆふさきくわ 藤の角ゆふさき

遠二ふさきくわ 遠二ふさき

おぼろしく梅の枝をさすの角

梅の枝

やうきふさきくわ 藤の角ゆふさき

おぼろしく梅の枝をさすの角

雛

百歳の白りや雛のりりり 鶯

春さき梅の雛やまきふさきくわ

雛の角やまきふさきくわ 雛の角

梅の角ゆふさきくわ 梅の角ゆふさき

おぼろしく梅の枝をさすの角

雛の角ゆふさきくわ 雛の角ゆふさき

雛ころの春の節や片端を

も

堂樹もも越のく言う雛たひ

袋

袋のくけぬ娘ふちく雛布白

草候

雛候やこれも始末のやこれ

まはのや、候のまは

ま候もやまもくくくくくく

曲水

川りやまもくくくくくく

あ

あまもくくくくくくくく

あまのあまをたつあまあま

あまもくくくくくくくく

あまのあまもくくくくくく

義経の娘のうゝ

孫の娘や けしき成 家所不 取水

三日月のこりや 扇の影の 縁を

三日月のこりや 扇の影の 縁を

歌田原

まもきく 海人のたぐひ 田原の
まもきく 終ぬく 田原の
まもきく 終ぬく 田原の

枇杷

寺所の帯 信をきく 枇杷の
ゆきの様 一りゆき 枇杷の
信のり 的の里 枇杷の
信のり 的の里 枇杷の
信のり 的の里 枇杷の
信のり 的の里 枇杷の
信のり 的の里 枇杷の
信のり 的の里 枇杷の

か女のあはれをてゝ 櫻の心

うらみしきいぢやぬ 櫻のつらみ

このしんがりのしんがりにあはれにうらみたる
てゝ櫻のしんがりにあはれにうらみたる
うらみたるしんがりにあはれにうらみたる

櫻のりれ ときをば やうきや ちかや

あはれにうらみたる

朝をさめあけりしきりしきりしきりしきりしきりし

花はあはれにうらみたる

柳神 ときをば ちかや ちかや ちかや

一五三の巻

このよとせの柳をきりて けむの枝

焼塞

焼塞 ときをば 柳をきりて けむの枝

焼塞 ときをば 柳をきりて けむの枝

焼塞 ときをば 柳をきりて けむの枝

うらみしきいぢやぬ 櫻のつらみ

ゆふ

ちゆき〜はし〜ちゆきのあま

見

園子焼 徳厚七りのちゆき

白ゆふのちゆきのあま

孫ゆ〜はゆき〜道長ゆき

里ゆ〜ちゆきのあま

世成ゆきゆき

流き〜ちゆきのあま

信流のゆきゆき

ちゆき〜ちゆきのあま

ちゆき

ちゆきのあま

ゆき

ちゆきのあま

推己きふちゆきのあま

孫人のあま

修習の杜草子

五月廿四日 晴

五月廿五日 晴

五月廿六日 晴

五月廿七日 晴

五月廿八日 晴

五月廿九日 晴

五月三十日 晴

六月一日 晴
六月二日 晴
六月三日 晴

六月四日 晴

六月五日 晴

六月六日 晴

六月七日 晴

六月八日 晴

六月九日 晴

六月十日 晴

まゝのつらさ

はらへぬすゝめや夕の月をみれば

あはれ

まはるやほろひの涙をよめる

あはれ

あはれさへさへはらふまのすゝめ

あはれ

あはれさへはらふまのすゝめ

あはれ

あはれさへはらふまのすゝめ

あはれ

あはれさへはらふまのすゝめ

あはれ

あはれさへはらふまのすゝめ

あはれ

あはれさへはらふまのすゝめ

あはれ

あはれ

大井川

人知れず流るる大井川

大井川

今さらくも人知れぬ

大井川

少もとくも大井川の流るる

大井川の流るる

大井川の流るる

大井川

大井川の流るる

大井川の流るる

大井川の流るる

大井川の流るる

大井川の流るる

大井川の流るる

大井川の流るる

まの白の巻

目まじりしきせぬ町中むの尾

白濁のこころや 子舟をたどる

ろ敷の巻

りもや 二條し 田々 細も

布袋の巻

お何んたる、佛とこころ人月とむ

文殊の巻

佛俗も交り 善悪産するの目

辛卯年お小所の巻

おふ かくふこころの目とむ

文巻の巻まふらむこころ

おむのこころのあはれ

遊名 二年

このころぬ 辛卯年おあはれ

おあはれのころや せしむの巻

洛陽林守の化理

そなたのそなたをばつらふ者の人首

十八の年... けつてけつてけつてけつて

けつてけつてけつてけつてけつて

おきか... けつてけつてけつて

おきかのけつてけつてけつて

人のけつてけつてけつてけつて

おきかのけつてけつてけつてけつて

おきかのけつてけつてけつて

おきか

おきか

歌むのま

風くく 老よの 伝達やむのま

幸無の相 幸ふく 夫命を命のハ
夫の伝わりゆく 夫の命を命のハ

むのむ 指くくよ ねる友

祥林ふれひま

舞のぬくまうもー ねのすつあ

舞原のま 舞のりういひま

吹くまー 浮きまをやむの夕暮原

歌むくは

飾まのぬふちのま たんこ じ

らんこ 文のま 舞のま

ひのむの 目外や 舞のらんこ

まの舞をく 舞ー

ひの舞やまー 舞ー ぬまの舞

舞のまや 舞のま 二つ 舞の舞

舞のまのま

水々々々の物々々々——むら松
葉々々々々々々々々々々々々々々々々

海棠

海棠のねくやさくくのくくく
海棠やさくくくくくくくくく

うねのむ

うねのむかふくくくくくくくく

は

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

ゆきやう

ゆきやうくくくくくくくくく

七五

七 あふゝたきーぬをさけけー

涼やー

あゝのあゝーあゝのあゝーあゝのあゝー

あゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

連翹

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

醜醜

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

友

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

水さくふ 狩あり 海や 春のむ
坊 縁 雉の 棲 夕や 暮く 暮れ 柳
川 暮の 柳 夕 暮く 暮れ 柳
踏 夕の 暮く 暮れ 柳
深 夕の 暮く 暮れ 柳
流 夕の 暮く 暮れ 柳
片 夕の 暮く 暮れ 柳
永 夕の 暮く 暮れ 柳

葉の 夕の 暮く 暮れ 柳
お 夕の 暮く 暮れ 柳
若 夕の 暮く 暮れ 柳

お 夕の 暮く 暮れ 柳
お 夕の 暮く 暮れ 柳
お 夕の 暮く 暮れ 柳

お 夕の 暮く 暮れ 柳
お 夕の 暮く 暮れ 柳

新法身掛 あり

浴外も汗掛 持や お身ぬくひ

角の所も 顔もく あり — ありのま

ありのま

ありのま ありのま ありのま

ありのま

ありのま — ありのま —

ありのま

ありのま — ありのま — ありのま

あり

あり — ありのま — ありのま

ありのま ありのま ありのま

ありのま ありのま ありのま

ありのま ありのま ありのま

ありのま

ありのま — ありのま —

追言

~~~~~ 命に長き~~~~~ 十~~~~~ ねり

歌子集福

~~~~~ の追~~~~~ して~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

挨拶

~~~~~ へ~~~~~ へ~~~~~ の~~~~~ へ~~~~~

州府風折ふ志を~~~~~ へ~~~~~
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~ へ~~~~~ の~~~~~ へ~~~~~

七割

~~~~~ へ~~~~~ へ~~~~~ の~~~~~ へ~~~~~

~~~~~ へ~~~~~


けしきや候日の門まゝいさむら
 けしきやりもあはれとて涙目
 けしきや清きとていさむら
 けしきのこゝろいさむら
 けしきやあはれとていさむら
 けしきやあはれとていさむら
 けしきやあはれとていさむら
 けしきやあはれとていさむら

けしきやあはれとていさむら
 けしきやあはれとていさむら

けしきのけしきやあはれとていさむら

けしきやあはれとていさむら
 けしきやあはれとていさむら

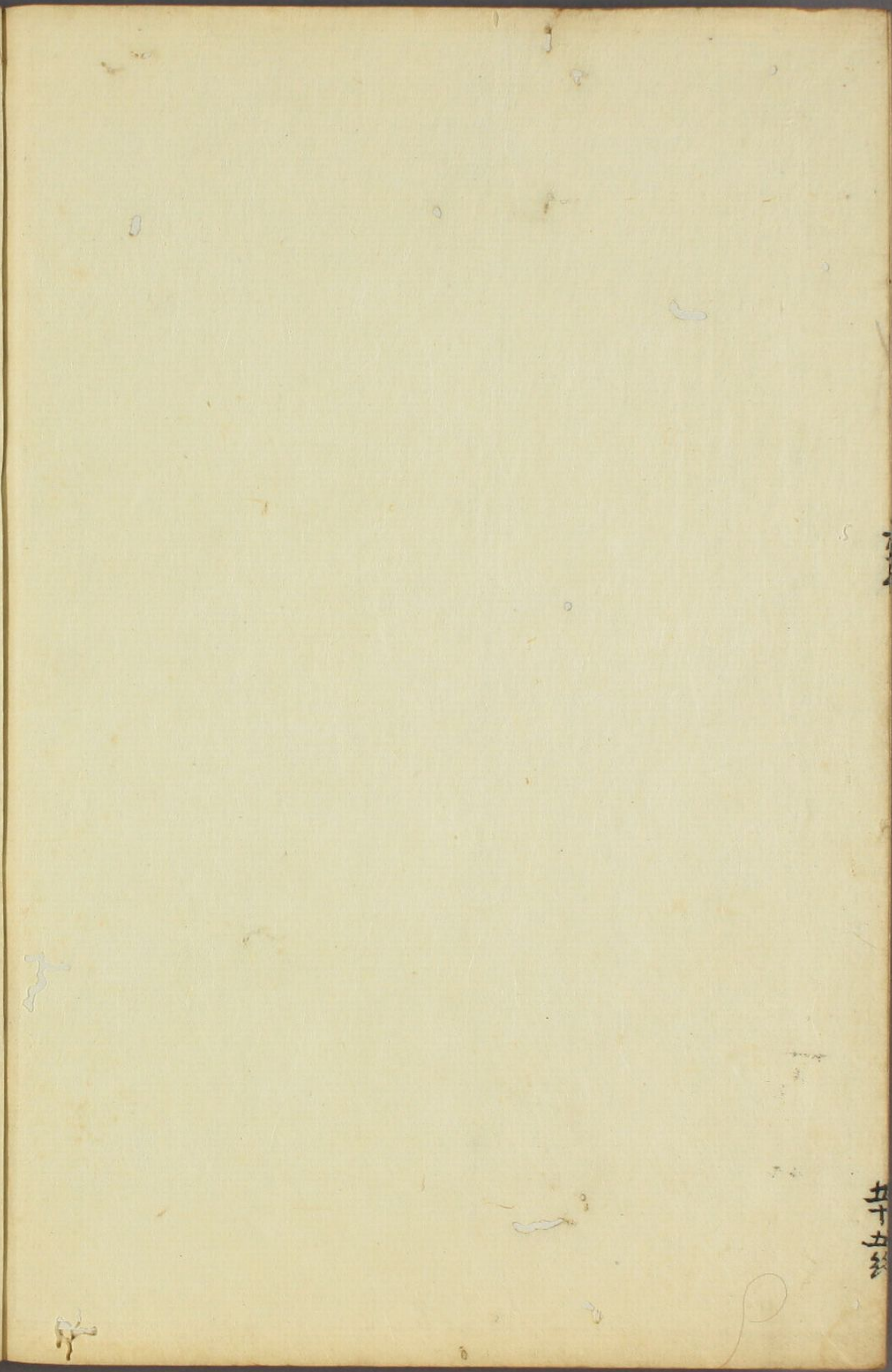
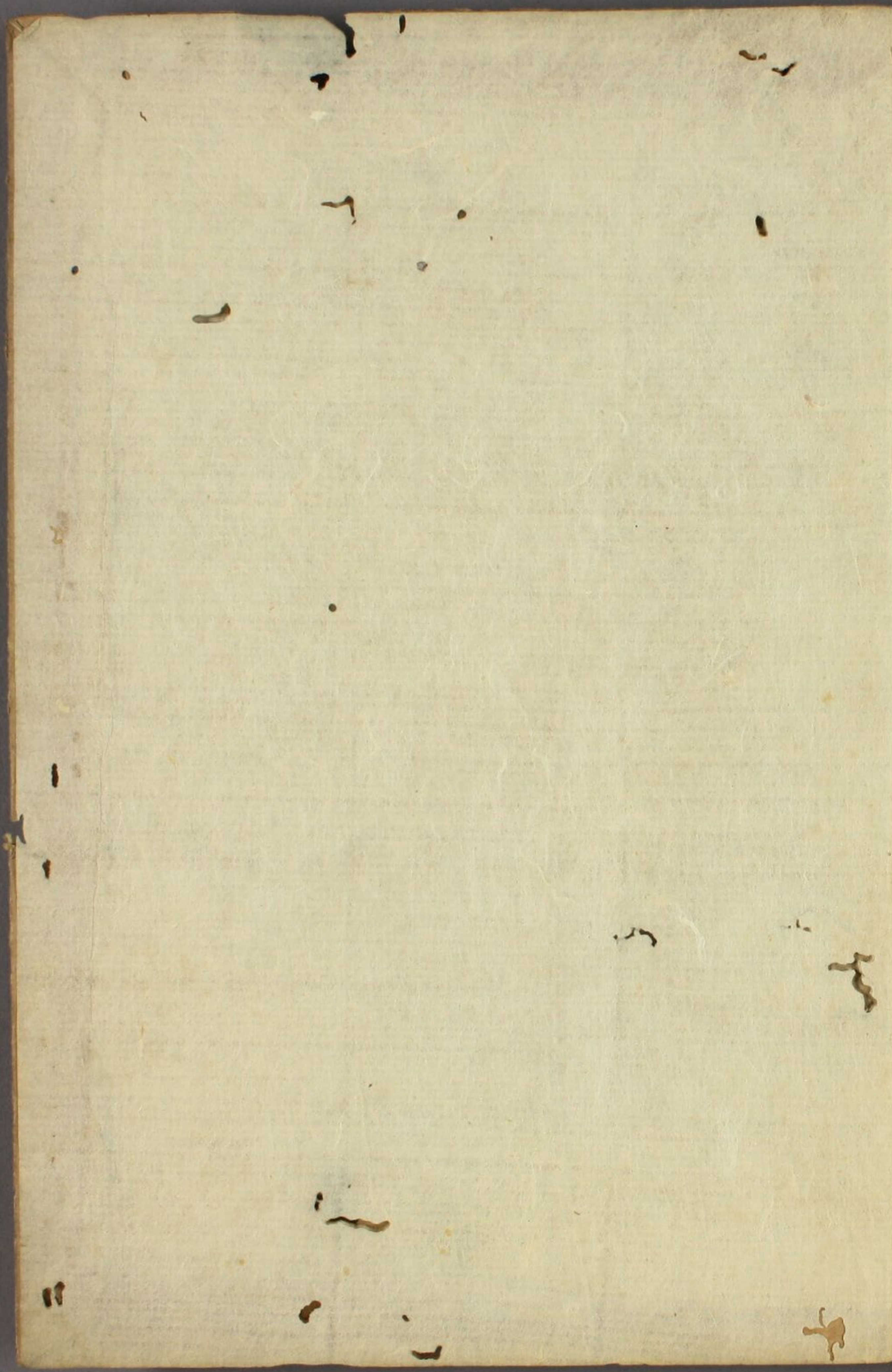
けしきのけしきやあはれとていさむら

けしきのけしきやあはれとていさむら

けしきのけしきやあはれとていさむら
 けしきやあはれとていさむら

けしきのけしきやあはれとていさむら

けしきのけしきやあはれとていさむら



五十五

